

文部大臣 小松原英太郎

阿部東京府知事代理東京府視學重田勲次郎氏左の祝詞を朗讀す。
 本日茲ニ宣教開始五十年記念會ヲ開カル、ニ方リ一言祝意ヲ表スルノ機會ヲ得タルハ浩ノ最モ光榮トスル所ナリ
 回顧スレバ徳川幕府ノ末造海外諸國ト始メテ修好通商ノ條約ヲ締結シ物論百出人心恟々疑懼ノ中ニ彷徨スルノ時ニ當リ纒ニ其ノ宣教
 ナ開始スルヲ得タルモノ今ヤ時勢ノ進運ト共ニ内外親交睦睦既ニ憲法ヲ以テ信教ノ自由ヲ確保セラレ全國到ル所其ノ布教ヲ歡迎スル
 ニ至レリ眞ニ天淵ノ差隔世ノ感ナクンバアラズ惟フニ是レ社會人文ノ發達ニ伴フ自然ノ趨勢ナルカ如シト雖モ其ノ茲ニ至レルモノハ
 内外宣教師諸君ガ銳意勸導精進民心ヲ指導啓蒙セラレタルノ功亦與カリテ力アリト云ハザルヲ得ズ洵ニ感謝措ク能ハザル所ナリ望ム
 ラクハ内外宣教師諸君ノ協力一致將來益々社會人道ノ爲メニ勇往邁進其ノ布教ニ盡瘁セラレン事ヲ一言所思ヲ述ベテ祝辭トナス
 明治四十二年十月五日

東京府知事從三位勳三等 阿部 浩

東京市助役田川大吉郎氏市長尾崎行雄氏代理として左の祝詞を朗讀す。
 基督教日本ニ必要ナルカ余ハ得テ之ヲ知ラザルナリ基督教日本ニ必要ナラザルカ余ハ得テ之ヲ知ラザルナリ、余ハ唯我社會組織ノ根
 底道義氣節ニ基クコトノ極メテ必要ナルヲ知レリ其道義氣節ガ古來宗教的信念ニヨリテ涵養セラル、事多キノ事實ヲ知ル而シテ既ニ
 佛教ヲ攝受シテ其ノ濃郁ニ沈潜スル事ヲ忘レザリシ我民族ハ決シテ惟リ基督教ヲ開却スル事ナカルベキヲ信セント欲ス
 然レ過去五十年日本ニ於ケル基督教ハ其傳道多大ノ障害ニ逢フシ之ガ宣教ノ任ニ當レル者亦此狀勢ニ見テ氣沮ミ心離シ遂ニ戰線ヲ
 脱スルニ至レル者スラ之レナキニアラザルカ如シ余ハ其因果シテ如何ナル事情ノ存ズルカ詳ニモセザルモ幾度カ此ノ如キ風説ノ傳ハ
 ルヲ聞ケリ而カモ今ヤ信徒ノ數既ニ七萬有餘ニ上ルト云フニ至リテハ諸君ノ經營努力以テ想フベキナリ
 願フニ過去五十年比較的多難ノ時期ニ際シ其成績ノ顯著此ノ如クンバ今後五十年ノ奏効更ニ大ナルベキハ勢ノ自然ニシテ疑ナク
 キ餘地ナキニ似タリ諸君ハ此際希望ヲ新ニシ軍容ヲ壯ニシ少武ヲ調ヘテ以テ其ノ目的トスル所ニ邁進セララル、ナラン而シテ我國運ノ
 將來ト基督教トノ關係如何ハ余ノ多大ノ興味ヲ以テ之レヲ注視セント欲スル所ナリ

祝

會

本日開教五十年記念ノ祝會ニ招待セラレタル光榮ヲ感謝ス其特ニ一言ヲ致セラレ、ノ故ヲ以テ敢ヘテ辭讓セズシテ唯平生ノ所懐ヲ
 述ブルコト爾ヲ終リニ臨ミ諸君ノ健康ヲ祈ル

明治四十二年十月五日

尾崎 行雄

内務大臣男爵平田東助閣下公務を以て三重縣へ出張中に付き不参の旨同秘書官より書翰を以て斷らる。
 在米國ニュー、シヨルシー州オレンジの醫學博士シエー、シー、ヘボン氏の祝電（哥林多前書十五〇五十八）、及び米國ニュー、ヨ
 ク市にあるプレスビテリアン及び美以兩教會の傳道局よりの祝電「エホバは是まで我らを助けたまへり」（撒母耳前書七〇十二）は和英兩
 語にて披露せらる。

祝

會

英國大使サー、クロード、マクドナルド氏は病氣にて出席せられず、同夫人よりその旨書面を以て通知あり、併せて祝意を表せらる。
 本多監督は此際特に米國代理大使シエー氏を會衆に紹介して其の臨場を謝せらる。
 費府フレンド外國傳道協會を代表してギルバート、ホールズ氏左の祝辭を述ぶ。
 英國政府のフレンド外國傳道協會より電報を以て依頼がありましたので、私は茲に謹て諸君に祝辭を呈したいと思ふのであります。
 以賽亞書の十九章廿四節に「其日イスラエルはエジプトとアッシリアとを共にし三あひならび地の上にて福祉をうくる者となるべ
 し」とありますが、之れは我協會が日本の傳道事業に對する希望の一端を言ひ表はすものであります。是等の言葉が今日の基督に應用
 すれば「日本に於ける基督は東洋と西洋とを共にし三あひならび地の上にて福祉を受くる者となるべし」と言ふことが出来ませう。
 惟ふに協議と活動、歡喜と悲哀とに於て、同じ軌の下に結ばれたる内外の基督教者は或る民族的又は萬國共通の最大問題の平和的解
 決に向て貢献しつゝあるものであります。費府のフレンド外國傳道協會は、此一事與其他の日本に於けるあらゆる基督教活動の上に
 「我もし地より擧げられれば萬民を引きて我に就かせん」と宣ひしキリストの祝福の豐ならん事を、切に祈るものであります。
 明治學院教授理學博士エム、エム、ワイコッフ氏、米國リフオームド教會外國傳道局の祝電に基き、左の祝辭を述ぶ、
 「一七、リフオームド、チヨルチ、イン、アメリカ」の外國傳道局を代表して衷心より諸君に祝意を表するのは私の愉快なる使命であり

ます。我傳道局は、亞米利加諸教派の中に於て極めて細なもの一であるにも拘らず、三人の日本開拓新教宣教師中の二人を派遣すべき偉大なる特権を與へられたるものであります。我傳道局は日本に遣された最初の宣教師の中にギド、エフ、フルベッキとサムエル、エス、ブラウンのありし事を記憶して特に喜ぶものであります。

當時我教會は「セ、リフオームド、ダッチ、チヨルチ、イン、アメリカ」として知られて居たものであります。而して早やくも其當時に於て日本に宣教師派遣の要求を受けたのは、全く我教會が和蘭と歴史的關係を有して居た爲めであらうと思ひます。當時我傳道局が此要求を容るゝことを得、隨て今回大會に依て記念せらるゝ過去五十年の全傳道期間、日本傳道事業に與ることを得ましたのは、我傳道局の如何にも満足に不堪所でありませぬ。

我傳道局は、過去の成功に對しては深厚なる祝意を表すると同時に、尙將來の傳道事業に與らん事を切に祈り且つ勵むものであります。美以教會監督エム、シー、ハリス博士夫人が、その永眠前特に我記念祝賀會の爲めに寄贈せられたる自作の英詩を、イー、ダブリエ、クレメント氏朗讀す、(原詩及び其和譯は共に卷首にあり) 監督インガム氏の熱誠なる祈禱あり、此の際メンカム博士はウィリアムス監督病氣の旨を告げて、一同の同情ある祈禱を求めらる。讚美歌第三十三番を歌ひハリス監督の祝詞を以て閉會す。

(同五日午後七時開會)

司會者 高崎介藏

先づアイケルハート兄弟、デヒン、シヤイブリー四氏の四部合唱あり、松野菊太郎氏の祈禱あり、山本那之助氏歡迎の辭を述べ、又小崎弘道氏より一場の挨拶あり。次いでデー廉のピアノの獨奏あり。小崎弘道氏の紹介により學者又著述家として有名なる在清國古澤宣教師の一人、神學博士アイサー、スミス氏一時間半に亘る大演説をなせり、左に掲ぐるは青山學院教授小畑久正氏の通譯せしもの大要也。

支那の傳道の全體を申上げることは逆も出来ないから、ただ其一方面を申上げる、其一方面は何であるかと云ふと共同事業である、宣教師出版會社或は各宣教會社の共同事業に付いてである、先づ支那と日本との差と云ふものは大なるものである、少しも似たことがないと云ふても宜しい程日本人と支那人と違ふのである、さうして其違ふことの最も著しい點は政治である、御承知の通りに支那國は非常に大きい國でありまして人口から云へば日本の七倍、形から云へば九倍も大きい所でありまして殊に國語が大變異つて居る、それは國語でないけれども、地方の方言が違つて居るので事業をするには面倒であります、それで宣教師が各方面から送られて居ります、例へば倫敦ミッション、それからアメリカンホールド、メヂタスト、アメリカンプレスヒテリアン、と云ふ工合に代表されて居りまして其れ／＼割據して働いて居つたのでありますけれども、成績が上らない、さうやつて居る間に支那に明治三十三年に團匪の亂が起りました支那の傳道事業と云ふものを出来るだけ破壊すると云ふことになつたのであります、是が實に奇惡な働きでありまして、各傳道事業、教育事業、實際の宣教師が打壞された爲に、其處に新しい決心が宣教師達の間につつてどうしても割據してやつて居つては往かぬ、吾々が共同してやらなければならぬと云ふので即ち其禍が變じて共同事業の發展の原因になつたのであります、支那には治外法権があります、或は傳道事業保護が始まりました、是等は一向助けをさせぬでしたが、却て團匪の禍が共同事業を起すことになりました、それで此共同事業を始めまして如何なる事が起つたかと云ふと第一出版會社の運動でありませぬ、此中央支那或は西部支那、東部支那と云ふ工合に出版會社がイロ／＼ありました、又違つたところの傳道會社を代表したのもありませぬけれども、是等の事業は一つにしなければならぬと云ふので何處までも共同的に運ぶやうになつた、それが抑も共同事業の初めであつた。

其次に教育事業であります、教育事業なども北京に於きまして各宣教會社が小さいところの學校を有つて居りましたが、是では往かぬ、矢張共同してやらなければならぬと云ふので遂に男子の爲に一の北京大學と云ふもの、又女子の爲に大學と云ふものを設けまして、其外に醫學校と云ふものを設けて各傳道會社が其力を集中して働くやうになつたのであります、是も大なる成功である、それから神學校の方を見ましてもさうであります、矢張各ミッションが小さい神學校を有つて居つては往かぬから是も一つにしなければならぬと云ふので遂には結合するやうになりました、斯う云ふ工合で總ての事業が結合して今日盛になつて來て居るのであります、此

結合した事業の結果として二年前に百年祝を祝ひました時に、其共同の如何に旺てあつたかと云ふことが著しく現はれたのであり

ます、そこで此二年前の百年祝の時の祝會に御列席になりました方がございませうが、御存知でありませうが、此時などは此祝を
することも非常に困難なことであつた、それはもう事情が違ふしイロ／＼なることが違ひましてどうして宜いやら分らぬやうであつ
て、殆ど醫者が匙を投げると云ふ工合に逆も出来ぬと云ふ様に考へた者もありました所が、其中に非常なる神の力が現はれて其有様
は恰も神御自身が望み給ふて我れ器る故に爾曹聴けと告げられた様であつた、吾曹は謹んで聴いた、それからと云ふものは此共同の
祝會が開かれそれが進行して、又動機になつて其から益々支那の共同事業、傳道事業を盛にして行かなければならぬ、と云ふ様になつ
たのが一つ、又もう一つは四部支那に餘程大きな領分があります、之には人口が八千萬、日本よりも大きいのでありますが、此處に
も共同事業が行はれるやうになつた、矢張亞米利加のメソヂスト教會、それからプレスビテリヤン、メソヂスト、英國のイロ／＼な
る傳道會社、それを集めると云ふことが非常に面倒であつたが、併ながら之にも妙なことがある、丁度明治三十三年に團匪が起りま
した如く此處にも騒が起りまして矢張傳道會社の事業を頓したのであります、それから困つてしまつて銘々がどうすることも出来な
い、それでどうして是は共同してやらなければならぬ、お互に頭を寄せて相談してやらなければ此事業は發展せぬと云ふこととして、
それが動機になつて四部支那にも其共同事業が行はれるやうになりました、斯の如く致しまして支那では皆共同をして居る、此共同
の働きが効を奏しつゝあります、此共同事業を始める前に實に困難なことがありましたが、私は烏滯がましいことであるけれども諸
君が五十年の祝賀をなすに付いて御審考までに申上げたのであります、一體共同事業をするときに理論を以て始めることはどうし
ても住かぬ、兎に角此處に事業があるから此事業をやらなければならぬと云ふ精神で、先づ事業から御始めになりましたならば、必
ず是は行くことであると思ひます、英國の有名なウエズレットと云ふ人が言つたことにも傳道事業の共同は決して宣教會社から出
来るものではない、其局に當つて居るところの宣教師連中が御互に共同事業をやつて居る其反響が来て共同が出来ると云ふことを言
はれましたが、支那の共同はさうであります、故にどうか願くは五十年記念は大切なことである、斯の如きことを祝ふことは大切な
ことであるが、併ながら將來の事業は非常に大きい、昔の事は既に過去のことである、吾々は新しい事業に向はなければならぬ、大
なる問題が目前にあるのであります、此時に一身上の事とか或は人権とか云ふことを唱へて居つたならば到底一致することが出来な

い、故に先づ主の事業は主を愛する精神に依つて其事業の上で共同することが誠に大切なことであつて是が成功の秘訣であると思ひ
ます、世間には随分共同が出来ないと頑張る團體もございませう、宣教會社もありませう、宣教師もありませうが、若しそれならば
出来得るだけの人々が結合して之をやらなければならぬと思ふ、さもなければ神の御恵みを此地上に持來たすことはむづかしいと考
へます、故に此支那の共同事業の誠に主の御恵の下に進歩發達して行くこと云ふことを茲に表明致し將來日本に働かれる諸君が共同事
業を盛にされまして主の御國の擴張を圖られむことを希望いたします。(拍手喝采)

第二日(十月六日、水曜午前九時開會)

祈 禱 會

司會者 中島力三郎

讚美歌第百番を合唱して司會者の祈禱あり、聖書希伯來書十二〇一及び哥林多前十五〇五十八の朗讀後、數名の熱心なる祈禱あり、讚
美歌第三十三番を合唱し中島氏の祝詞にて閉會す。

(同六日午前九時半開會)

第一講演會

司會者 元 田 作 之 進

讚美歌第二百二十三番を歌ひデビソン博士の祈禱を以て閉會す。「基督教々育の結果」に就て長崎東山學院長エー、ヒーマルス氏の詳細
なる統計表に依れる講演あり、次に明治學院總理神學博士井深規之助氏は「基督教々育の前途」に就て論じ基督教大學設立の必要を
説かる、次に「教役者の養成」と題して京都同志社長原田助氏の講演あり。讚美歌第二百七十五番を歌ひて直に七分演説に移る。依
て大阪聖三一教會牧師深田直太郎氏、關西學院教授松本益吉氏、東京學院長イー、ダブリン、クレンメント氏、聖教社神學校長今井善道
氏、館西學院長笹森字一耶氏缺席の爲め同部長スコット氏、東北學院教授尾久米太郎氏、大阪桃山中學校長シー、エッチ、ビー、ウ
ィド氏等順次教育問題に付て其所感を述べ。一同にて頌歌第四百六十二番を歌ひ小崎弘道氏の祝詞を以て午前の集會を閉づ。

(同六日午後二時開會)

第二講演會

司會者

神學博士 平岩 愷 保
神學博士 エー、テイ、ハワード

閉會祈禱者は山口縣に三十一年間傳道せる青山昇三郎氏なり。その後ハワード氏は事務委員の姓名を報告し日本聖公會監督會議の決議祝賀書及びコーツ博士よりの來信哥羅西書三〇十一一を朗讀し、而して讚美歌第五十三番を歌ひ然る後「基督教文學」と題して柏井團氏の講演あり。尙ほ同題に就て神學博士シドニ、ギユリック氏は英語を以て講演を試みられたり。次てハロー嬢の獨奏ありて直に七分演説に移る。

初めにメソヂスト教會機關新聞編輯主筆神學博士嶋崎庚午郎氏は基督教文學に就て、基督教世界の主筆加藤直士氏は現代文學に就て、更らに青山學院教授別所梅之助氏は國文學の立脚地より見たる基督教文學に就て語り。ついで竹崎八十雄氏の演説あり又有志者演説としては、野寄辰橋教會牧師田村直臣氏の回顧談及びジョナサ、プレスウエート氏「聖書改譯意見」の演説ありき。かくて種々の報告あり一同讚美歌第二百八十二番を歌ひハワード博士の祝辭を以て閉會す。

(同六日午後七時開會)

第三講演會

司會者

神學博士 井深 棍之助

會衆一同讚美歌第四十三番を歌ひシネター博士閉會祈禱を捧ぐ、讚美歌第二百二十五番を歌ひ井深氏の紹介にて本郷教會牧師海老名彈正氏は「日本の倫理宗教思想及び國民生活に及ぼせる基督教の感化」と題して演説せらる。それより第一高等學校校長法學博士農學博士新渡戸稻造氏も亦同問題に就て論じ一方我國民の爲めに辯じ他の一方に於ては宣教師の反省を促す所ありたり。

オルテン氏の朗吟の後、「日本の教育及び文明に及ぼしたる宣教師の功績」と題して東京帝國大學教授理學博士藤澤利喜太郎氏は宣教五十年來の歴史的事業を引照して有益なる講演を試みらる。會衆一同頌歌第四百六十二番を歌ひ本多監督の祝辭を以て閉會す。禮堂滿堂。

第三日(十月七日、木曜午前八時三十分開會)

祈禱會

司會者 井深 花子

司會者井深花子姉は始めに聖書研究の必要を説き、三人の姉妹の祈禱あり、讚美歌第六十一番を歌ひて閉會す。

(同七日午前九時開會)

第四講演會

司會者

ミス、グロスピ
矢 島 排 子

先づイー、タルカット嬢は「婦人傳道學校」と題して演説をなし、次ぎに本多貞子女史は現代日本に行はるゝ教會の婦人會事業に就て報告をなし、次いでシー、ダブリン、パンマナン夫人は「婦人傳道者」に就て五分の演説をなし、アイ、エム、ハーグレン嬢は「婦人傳道者の地位と其事業」に就て簡單なる所感を述べらる。この後司會者は日本に於ける最古の老婦人傳道者四名を紹介す、續いて麻布東洋英和女學校生徒の合唱あり。シー、ビー、デフォーレスト嬢は「女學校生徒の日曜學校事業」と題して現代日本に於けるミッシヨン、スクールの生徒の日曜學校事業上の働きを詳細に報告せられ、稍垣する子女史は「未信者に對する傳道事業」と題してパウロの傳道方針に倣ひ訪問傳道の必要より召を受けしものゝ責任を説かれたり。同じ題の下にシー、ビー、ピアソン夫人は聖靈に充さるゝの必要を説きて傳道者のなすべき責任を示さる。次ぎはツエー、エヌ、グロスビー嬢司會の下に教育事業に就て講演會開かる、先づ和久山キツ子女史「幼稚園及び小學校學史に就て」報告せられ、エヌ、ビー、グリーンズ嬢は「ミッシヨン女學校」の事業に就ての意見を認められしを、ハロー嬢代讀せられ、イー、シー、ノイリツプス嬢は「普通女學校の學生間における傳道事業に就て述べ詳細なる統計を擧げて説明せられたり、讚美歌第百番を歌ひ直にエス、エー、ソール嬢の「ミッシヨン女學校」に就ての講話あり次いで青山女學院長エー、シー、ルイス嬢の日本の女子教育に就て日本的基督教教育の特質より論じて宗教教育の必要を論ぜられ第八十一番の讚美歌を以て午前の講演會を終はる。

(同七日午後二時開會)

第五講演會

司會者

フキシヤ、夫人
栗 屋 菜 子

初め讚美歌第三十六番を歌ひ本多貞子女史の閉會祈禱について社會改良の問題に關して先づ小時千代子女史は「矯風會、救濟、工場

事業」と題して十分餘の即演説をなし、林貞子嬢は獨唱をせられ、ホーカス嬢は「基督教文學」と題して意見を發表せられ、次ぎに林歌子女史は「病院、孤兒院、小兒預所」に就て詳細なる統計的講話を試みられたり、その後一同にて讚美歌第二百二十三番を歌ひ司會者の紹介に依て日本女子教育界の恩人ミラー夫人挨拶せらる、次に萬國基督教婦人矯風會特派員たるエフ、イー、ストラット嬢は矯風事業に就て簡単に述べられたり（結城姉通譯）、その後女子學院生徒の合唱（讚美歌第二百三十一番）ありて京都同志社女學校長エム、エフ、デントン嬢は「過去五十年間に於ける日本婦人の働き及び其進歩に就て」述べられたり、其後一同にて第二百六十三番の讚美歌を歌ひ主の祈を以て閉會せり。

（同七日午後七時開會）

第六講演會

司會者 小崎 弘道

會衆一同起立して讚美歌第二百七十三番を歌ひ山鹿旗之進氏の祈禱を以て開會す、演題は「基督教と社會改良」にして初め萬國改良會東洋特派員イー、ダブリン、マウイング氏「基督教と萬國改良の關係」に付き簡単に述べ、讚美歌第九十五番を歌ひ立教學院長哲學博士元田作之進氏は「基督教と社會的觀念」の名の下に社會的觀念の變化より社會事業に説き及ぼして講話をせらる。オルチン嬢の獨唱あり。次で「基督教と社會改良」と題して山室軍平氏は自己の實驗上より最も熱誠に懇切講話せらる、會衆一同にて讚美歌第八十五番を歌ひエム、シー、ハリス監督の演説あり。次ぎに「基督教と禁酒事業」に關して安藤太郎氏の演説あり。讚美歌第二百五十二番を歌ひ小崎弘道氏の祝禱にて閉會す、此夜會する無慮一千數百なりき。

（同八日午前九時開會）

祈禱會

司會者 ダブリン、ビー、バンコム

讚美歌第二百五十二番を歌ひバンカム氏の祈禱を以て開會、聖書利未記二十章及び使徒行傳二章を讀み聖靈の降臨を求め第百五十八番の讚美歌を歌ひバンカム氏の祝禱を以て終る。

（同八日午前九時半開會）

第七講演會

司會者 中島 力三 耶

讚美歌第二百五番を歌ひ中島力三耶氏の祈禱にて開會す、「教會事業」と題して神學博士平岩愷保氏の講演あり、又同一題の下に多田氏の講演あり、讚美歌第八十一番を歌ひ同題の下に植村正久氏の簡單なる講話あり、シャインツリー氏の獨唱ありて直に七分演説に移る、初めに大坂聖教主敎會牧師河合三氏及びアル、イー、マッカルヘン氏の「禮拜に就て」の簡單なる演説の後、横濱美善敎會の稻沼鶴代太氏及びシー、エフ、フレバー氏の「説教に就て」の講話あり。次ぎに京都同胞敎會牧師石黒猛次郎氏及びデー、エー、モーレー博士は「日曜學校に就て」意見を述べられ、次いでエス、イー、ヘーガー氏は「教會の自給」に就て意見を發表せらる。

（同八日午後二時開會）

第八講演會

司會者 本 多 庸 一

讚美歌二百五十四番を歌ひ瀬川淺氏の祈禱を以て開會す。「傳道事業」と題して初めに日本基督教兩國敎會牧師星野光多氏は「何故に？」、「何を？」、「如何にして？」傳道するかと云ふ題目の下に十五分の講演をせらる。渡瀬常吉氏及びアル、エム、バルソン氏欠席に付き直に七分演説に移る、初めに「市内傳道」と題して河合三氏演説せられ「地方傳道」と題して神學博士小方仙之助氏及び神學博士エーデー、ヘール氏演説せられぬ。その後日本最古傳道者の一人なる瀬川淺氏讚美歌に付て簡単に意見を述べられ、日本メソヂスト靜岡敎會牧師波多野傳四郎氏は「集中傳道」の必要を論じ、日本基督教會傳道局幹事山幸次郎氏は「大學傳道」に就て大にその必要を述べられ、オルチン嬢の獨唱あり、星野光多氏の祝會の會計報告あり。次いで東京基督教青年會幹事山本邦之助氏は「青年傳道」の必要及び方法を述べられ。エフ、シー、ブリックガス氏は「内海の島嶼に於ける傳道」を語られ、一同頌歌第四百六十二番を歌ひアーサー、ミス博士の祝禱を以て午後の集會を閉じたり。

（同八日午後七時開會）

第九講演會

司會者 元田作之進

會衆一同起立して讚美歌第二百七十三番を歌ひ、旭川の宣教師ヒアソンの祈禱を以て閉會す。讚美歌第二百五番を歌ひ、初めに仙臺の宣教師ウエー、エチ、デフォーレスト博士は流暢なる邦語を以て「民権及び信教自由に於ける基督教の影響」と題して日本に於ける民権及び自由と與へたる基督教の影響に就て述べる、次に「基督教と慈善事業」と題して留岡幸助氏は長時間に亘る講演を實際的方面より統計的に述べられたり。ダブリン、エチ、エルウイン氏演明の後、島田三郎氏は「民権及び信教自由に於ける基督教の影響」と題して直接眞ぶ所は少なきも間接に基督教が民権及び自由思想に與へし影響はその功績没すべからずと述べられぬ、一同頌歌第四百六十二番を歌ひ元田博士の祝詞にて閉會す、此夕會衆無慮一千數百名。

第五日(十月九日、土曜午前九時開會)

祈禱會

司會者 高野 丈三

讚美歌第二百三十八番を歌ひ福馬書第十二章を讀み稻垣信氏の祈禱を以て閉會す、七八名の祈禱あり、讚美歌第二百四十三番を歌ひ稻垣氏の祝詞を以て閉會す。

(同日午前九時半開會)

第十講演會

司會者 神學博士 平 岩 信 保

會衆一同讚美歌第三十五番を歌ひ細川瀧氏の祈禱を以て閉會す。「過去及び將來に於ける宣教師の事業」と題して初めに山本秀煥氏の講話あり、續いてシエー、シー、タンロツフ氏及び網島佳吉氏問題に付て演説せられ、駿台女學校生徒の讚美歌の合唱あり、續いてデー、エチ、ヘーアン氏及び本多庸一氏は「將來に於ける宣教師の事業」に就て述べられ、その後、視會の爲めの集金及び報告ありて、讚美歌第二百九十四番を歌ひ、植村正久氏の「責任を自覺せよ」と云ふ叫びを聞き、次いで京都同志社教授神學博士ウエー、デー、デビス氏の講話あり。

(同日午前十一時半開會)

事務會

司會者 小崎 弘道

定りたる諸講演も爰に無事終了することを得たれば、委員長小崎ミラーの兩氏は平岩デビソン兩氏に代りて司會者の席に著き直に事務會に移り、議案委員より提出せる別項記載の諸決議文を逐次和英兩文にて朗讀の上滿場一致起立を以て之を可決し、讚美歌第二百七十三番を歌ひミラー氏の祝詞を以て閉會す、千時半後零時三十分なりき。

決議文其一

本大會ハ日本ニ於ケル「プロテスタント」基督教宣教開始第五十年ヲ祝スルニ當リ先ヅ我等ノ主イエス、キリストノ父ナル全能ノ神ニ對シ既往ニ於テ日本國民ガ享有シタル恩惠ヲ感謝ス、就中 天皇陛下ノ大御心ニ由リ憲法ヲ欽定セラレ以テ貴重ナル信教ノ自由ヲ保障セラレタルコトニ對シテ特ニ神ノ聖名ヲ頌讚ス
過去五十年間ニ於テ歐米ノ諸基督教會ハ主イエス、キリストノ大命ヲ奉シ且ツ其模範ニ倣ヒテ永生ノ福音ヲ日本ニ宣傳シタリ此事業ニ對シテ本大會ハ深厚ナル謝意ヲ表スルト同時ニ今後日本ノ諸基督教會ガ確實ニ建立セララル、マテ尙其ノ愛ノ勤勞ヲ繼續センコト切望ス且ツ斯ク豊カニ日本ノ爲メニ貢獻シタル諸教會ニ神ノ恩寵ノ益々豊カニ加ハラント祈ル
神ノ大智ニ由リテ古ヨリ世界ニ於テ特殊ノ重任ヲ負ハシメニ召サレタル國民アリ思フニ日本國民モ亦タ此ノ如キ召ヲ蒙リタルヲ年ヲ逐フテ明白ナリ是故ニ本大會ハ日本國民ガ其榮リタル召ト選ビトテ堅クシ且日本ノ諸基督教會ガ此時代ニ在リテ光ノ如ク世ニ顯ハレンコトヲ祈リ且ツ歐米ノ諸教會モ亦タ常ニ我等ト共ニ之レガ爲ニ祈ラント切望ス
右決議ス

決議文其二

本大會ハ歐米ニ於ケル諸教會ノ傳道會社及ビ傳道局ガ送リタル兄弟ノ懇切ナル祝詞ニ對シテ誠實ナル謝意ヲ表ス又既往多年ノ間彼等ガ日本ノ爲ニ盡シタル其同情ニ對シテ深厚ナル謝意ヲ表スルト同時ニ彼等ガ常ニ聖靈ノ指導ニ由リテ其ノ重任ヲ全フセンコトヲ祈

右決議ス

決議文 其三

本大會ハ茲ニ博士ハホン氏並ニ監督ワイリアムス氏ニ對シテ懇切ナル兄弟ノ親愛ヲ表シ且ツ彼等ガ神ノ恩寵ニ由リテ平安ノ中ニ一生ヲ終リ送ニ百フベカラザル喜ビト光榮トニテ充チタル永遠ノ國ニ入ランコトヲ祈ル

決議文 其四

本大會ハ日本ニ於ケル高等ノ諸基督教學校ガ既往ニ於テ收メタル効果多大ナルヲ喜ビ認ムルト同時ニ之ノ同程度ノ官公立學校ニ比較シ其設備ニ於テ甚ダ遜色ナキ能ハザルヲ遺憾トス此ノ如キハ日本ニ於ケル基督教ノ前途ノ爲メ憂慮ニ堪ヘザル所ナリ、實ニ日本ニ於ケル基督教ノ將來ハ現在ノ諸基督教學校ノ設備ヲ擴張完備スルト爲ザルトニアリ、加之更ニ緊要ナルハ名實相違ヘル基督教大學ヲ速カニ設置スルニアリ、故ニ本大會ハ茲ニ此等ノ必要ヲ掲ゲテ内外基督教徒ノ注意ヲ喚起シ且ツノ同情ニ訴フ

決議文 其五

我國ニアル諸派基督教會ハ從來福音同盟會ノ下ニ協同一致ノ運動ヲ爲シ來リシガ數年前ヨリ時勢ノ必要ニ應ジ愈々此ノ協同一致ノ實ヲ全フスル爲メ之レヲ改造シテ教會同盟ナルモノヲ組織スルトニナリタリ今回愛ニ會同シタル我等ハカ、ル同盟ノ必要ヲ深ク認ムルガ故ニ教會同盟ノ設立ハ勿論ソノ組織ヲシテ各派協同ノ實ヲ完フセシムル様ニ計ラレンコトヲ希望スルモノナリ

決議文 其六

吾人ハ神國建設ノ要素及ビ其ノ擴張ノ機關トシテ日曜學校ノ極メテ大切ナルヲ認メ日本日曜學校協會ガ銳意新業ノ調和統一ヲ計ラ

ントスルニ對シテ贊同ノ意ヲ表シ且ツ之レヲ諸教會、諸ミッション及信徒各自ニ推薦シテ其ノ同情ト協賛トニ訴フ

決議文 其七

宣教開始五十年記念會ハ日本ニ於テ從來世ニ出テタル基督教文學中幾多優秀ナル著譯アルヲ認ムト雖現時ノ要求ニ應ゼンニハ現在セル出版機關ヲ以テ充分ナリト信ズル能ハズ

今ヤ日本ニ於ケル基督教ノ運動ヲ爲スニ當リ從來ノ著譯ヨリモ品質優秀ニシテ種類多キ基督教文學ヲ要求スルヤ極メテ痛切ナリ然ルニ此ノ要求ニ應ズベキ出版機關ヲ設置スル事業ハ一教會一教派ノ獨力以テ能クスル所ニアラズ廣大ナル規模計畫ニ待タザルベカラズ而シテ之レガ爲メニハ頗ル多數ノ資金ヲ要スル事亦多言ヲ要セズ

故ニ本會ハ此ノ件ニ關シ内外ノ信徒諸君ガ切實ナル注意ヲ惹起センコトヲ熱望スルモノ也

決議文 其八

吾人ハ日本基督教青年會同盟及日本基督教女子青年會同盟ガ各教會ヲ代表シテ事ヲ青年傳道及其ノ教化ノ事業ニ盡瘁シ能ク我國教會ノ事業ニ援助ヲ與ヘタルノ功ヲ認メ之レヲ感謝スルト共ニ將來益々其ノ事業ヲ擴張シテ特ニ學生及ビ商工業者間ニ普及セシメンコトヲ希望ス

決議文 其九

日本基督教發達史ニ關スル記録、書籍、寫眞、又ハ其他ノ物品ヲ集メテ之レヲ適當ナル場所ニ適當ニ保存スルハ現在ノ興味又將來ノ歴史ノ參考品トシテ極メテ必要ナリ依テ吾人ハ愛ニ左ノ決議ヲ爲ス

一、本大會ハ五人ノ委員ヲ擧ゲテ我國基督教歷史ノ參考タルベキ書籍物品ヲ適當ナル方法ヲ以テ集收シ且ツ保存スル事

右決議ス

決議文 其十

我國ニ多クノ慈善事業アリ且ツ我國醫學ノ進歩著シク病院ノ數多シト雖未ダ一ノ完全ナル基督教の慈善病院アルヲ見ザルヘ一ノ遺憾ナリ今回宣教開始五十年記念會ニ際シ斯ル病院建設ノ必要ヲ認メ有志ニテ之レガ設計ヲ計畫センヲ希望ス

明治四十二年十月九日

川上昌保

和田劍之助

淺見三度

四 鐘

渡邊燕十郎

木村順吉

長田重雄

田口契矩

毛利伊賀

右建議ノ旨趣ヲ賛成シテ茲ニ之ヲ決議ス

決議文 其十一

吾人ハ本記念會ノ開催ニ際シ多大ノ注意ト努力トヲ各マメシテ其成功ニ貢獻セラルタル全委員長、副委員長、諸委員及ヒ友人一同ニ對シテ深厚ナル感謝ノ意ヲ表ス

右決議ス

決議文 其十二

今回ノ記念大會ヲ執行スルニ際シ東京基督教青年會ハ其會館ヲ開放シテ我等ノ用ニ供シタルノミナラズ萬般ノ事ニ付テ多大ノ便宜ヲ與ヘタル共ノ厚意ニ對シテ本大會ハ深厚ナル謝意ヲ表ス

右決議ス

園遊會

(同九日午後三時開會)

原六郎氏及同夫人の厚意に依りて品川御殿山に在る同氏別荘の幽邃なる庭園に園遊會を開らく、來會者内外人合せて約一千人、稀有の盛會なりき、珍品重寶の觀覽を始めとし、茶葉及壽司の饗應あり、手品、音樂隊など頻りに興を添へ、會衆一同、滿二十五年以上在職の内外教役者、及び全委員等代るく攝影し、又芝生の上、樹木の間、三々五々相携へて談笑の間に苦交友情を温め、十二分の歡を盡したる後、薄暮に至りて散會したり。

第六日(十月十日、日曜午後二時開會)

禮拜教會及び聖晚餐式

司會者

小崎 弘 道

イー、アール、ミイラ

會衆一同讚美歌第三十五番を歌ひ、小崎氏聖書(路加傳六〇一―十)を朗讀シシエー、ヒー、ヘール博士開會の祈禱を捧ぐ、讚美歌第八十一番の合唱に次で、大阪教會牧師宮川經輝氏馬哥傳一章十七節及び路加傳五章四節を朗讀し、「人を漁る者及び漁る方法」と題して説教せられたり、説教の後會衆一同讚美歌第八十五番を歌ひ直ちに聖晚餐式に移る、司式者は石原保太郎相原英賢の兩氏にして、極めて嚴肅なる勸話及び祈禱の後パンと葡萄酒を分り、信者内外諸國及び諸派を代表せる教役者及び信徒無慮七百名眞に記憶すべき盛典なりき、聖餐式に續て献財の募集、諸報告等あり、更に小崎弘道氏は前日の事務會の委託に基き圖書及び參考品保存委員として元田作之進、井深規之助、山田寅之助、イー、ダブリユ、クレメント及び小崎弘道の五氏を指名し、讚美歌第二百五十四番の一、二節を歌ひ感謝祈禱會を開らく、本多庸一、シエー、デー、デビス、稻垣信の三氏最も熱心なる祈禱を捧ぐ、讚美歌第二百五十四番の三、四節を歌ひ一同主の祈を爲し感謝と希望の中に宣教開始五十年記念會を了りぬ、于時明治四十二年十月十日午後四時半なりき、

傳道參考品展覽

五十年記念會の始めより終りまで青年會館の一部に參考品陳列展覽室を設け、篤志者の貸與せられたる書籍物品等を陳列して來會者の展覽に供したるが、其規模は固より大ならざりしも、觀覽者を益したる所頗る多かりしやに思はれたり。彼の參考品保存委員の任命せ

られしは、遊し之れに趣因するならん。

宣教開始五十年記念會主任書記

鵜飼 猛

宣教開始五十年記念祝典記録終

NI VISION.

(A Meditation in this the Fiftieth Year
of Christianity in Modern Japan.)

Back to the lands of Orient, the Orient Christ is come ;
Bend low your souls in worship, let heedless lips be dumb
In wordless adoration before His inmost shrine ;
The Nazarene rejected is clothed with Love Divine—
Back to His own, He cometh, your living Lord and mine !

* * *

Cast from the heart of Asia, He tamed the savage West,
Against His seamless garment, its thronging millions pressed ;
Full sore the travail of His soul, and long the way He trod,
Until its tribes acclaimed Him a Savior and a God ;
Though dimmed their Heavenly Vision descending from its skies,
Yet still men cry, " *Rabboni*," and in His name arise—
Now 'mid His own, He standeth, in larger, fairer guise !

* * *

This Star whose olden splendors illumed the Syrian blue,
Athwart the heavens shining its glories shall renew ;
Thine ancient Chosen wove Thee the mocking crown of thorn,
To-day, Thou holdest Empire above the shame and scorn ;
Thou art the King of Glory, whate'er the foolish saith,
O Lord of Love immortal, O Lord of life and death—
Breathe on Thine Asia's Children, Thy Spirit's quick'ning breath.

* * *

Thy kindred nation wanders in exile thro' the lands,
Ond rises this, Thy Chosen, exalted from Thy Hands,
Ardained to lead the peoples to fuller life and free ;
This hour for *Asia's leader*, we lift one, mighty plea—
Thro' spirit-throes and tumult, guide her, the tempest-tossed !
She waits Thy Self-revealing, redeemed at boundless cost—
Send down the brooding Heaven, Thy fiery Pentecost !

Flora Best Harris.

(June 20th, 1909.)

幻のうちに

キリスト教の再び傳りてより五十年といふをりの冥想

ひがしの國に、東の主は、歸り來ぬ。

神々しきみむれの御光、あふぎては、

言の葉も出でず、たゞ顔突きまつる。

棄てられしナザレ人は、愛の衣を纏ひ、

その國にきましぬ、汝が主よ、我が主よ。

アシアより放たれし主は、西の戎を懐けぬ。

その鱗目なき天つ衣に、幾萬の人か觸れけん、

あし、御胸は通り、御旅路は長かりき。

かくて後、民は、主よ、神よと稱へつ。

み空よりなる幻に、眼はかすめど、

人々はラホニよと叫びて、御名にぞ奮ひ起つ。

今し、己が民の中に、御姿榮えまさりて主は立たせ給ふ。

フロラ、ベスト、ハリス

古シリアの空に燦々しき星こそ、

天を横きりて更にまやけき光を發たぬ。

荊の冠を捧げしは、「選ばれし者」の昔、

主の國、今は、囁と恥とのよそにあり。

愚なるは如何にもいへ、主は榮の君にいます。

當世の愛の主よ、生と死との主よ。

汝がアシアの子らに、生命の息、吹きかけてよ。

主の同胞は、住家定めず、さ迷へど、

御手に選ばれて、この民ぞ立ちたる、

諸人を新なる生命と自由とに導く務おひ。

このアシアの指導者の爲に我ら切に祈る。

憐れみ、あらしの中を進む民の、

親しき御姿を、測りなき御救をまつに、

父なる天よ、燦の節會を現したまへ。

(別所梅之助譯)

324
166

明治四十三年二月十八日印刷
明治四十三年二月廿一日發行

不許
複製

賣捌所

編纂兼發行者

印刷者

印刷所

發行所

定價金壹圓

東京市京橋區銀座四丁目壹番地

鵜飼猛

東京市京橋區西紺屋町廿六七番地

佐久間衡治

東京市京橋區西紺屋町廿六七番地

株式會社 秀英舍

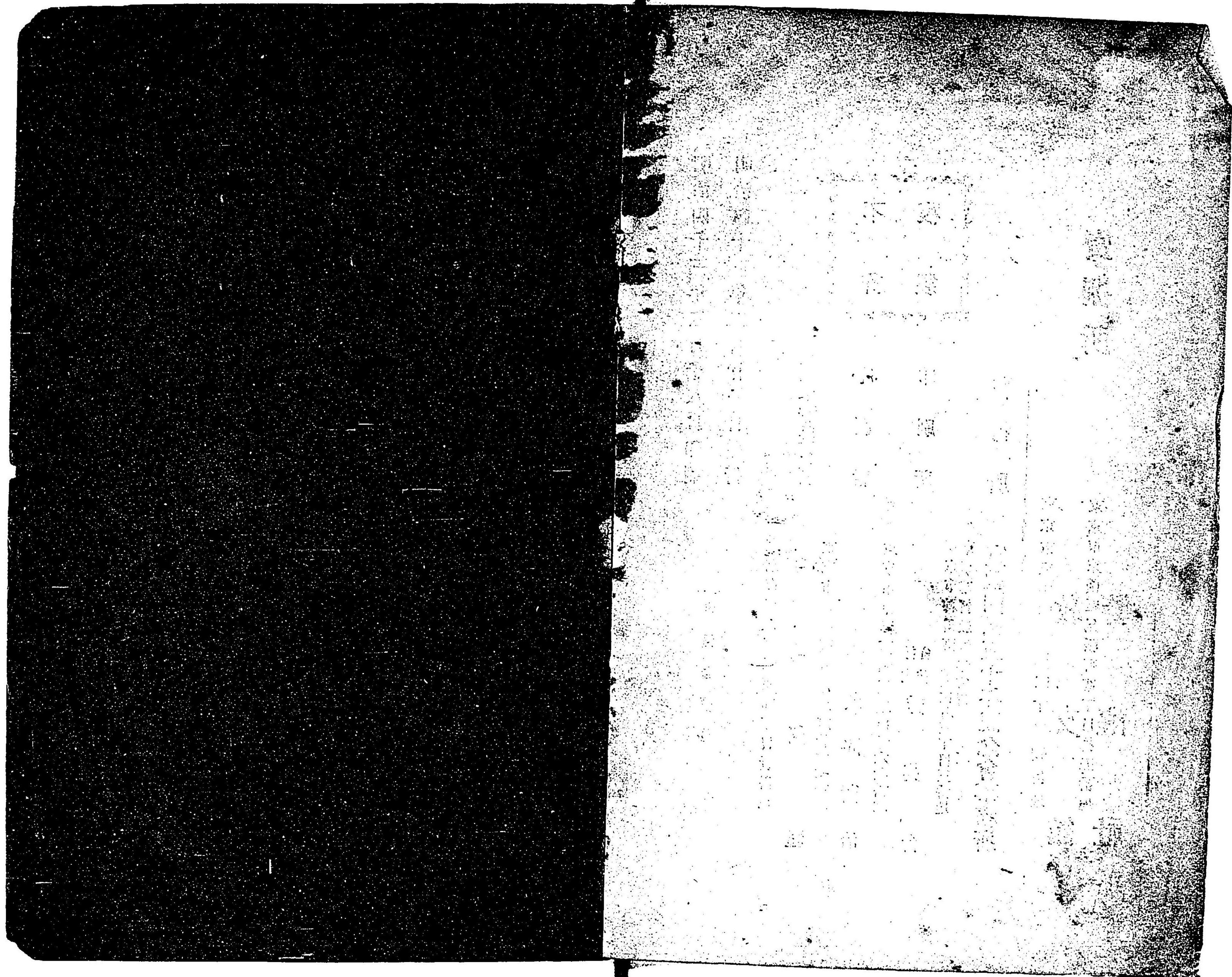
東京市神田區美土代町三丁目三番地

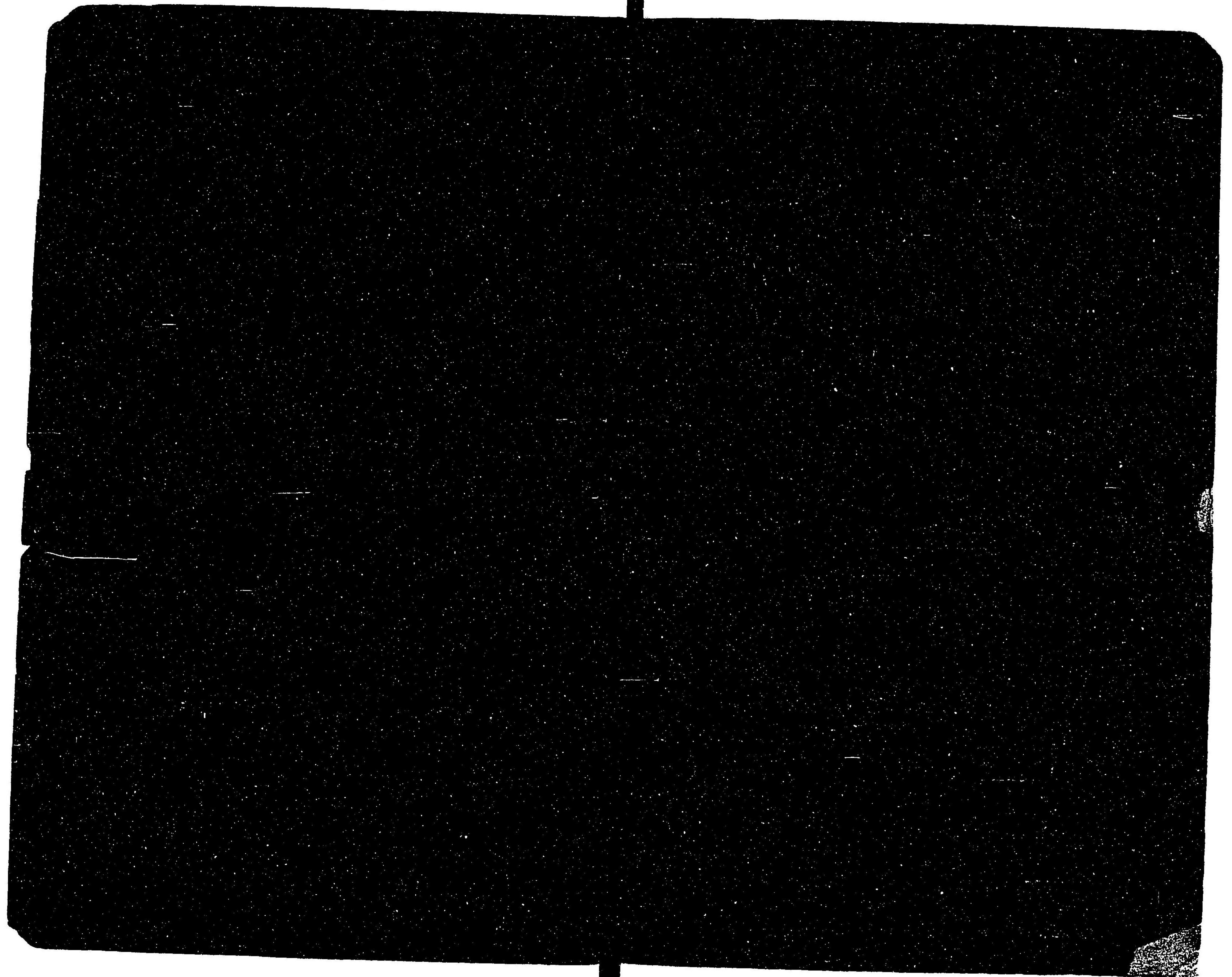
東京基督教青年會內
宣教開始五十年紀念會事務所

東京市京橋區銀座四丁目壹番地

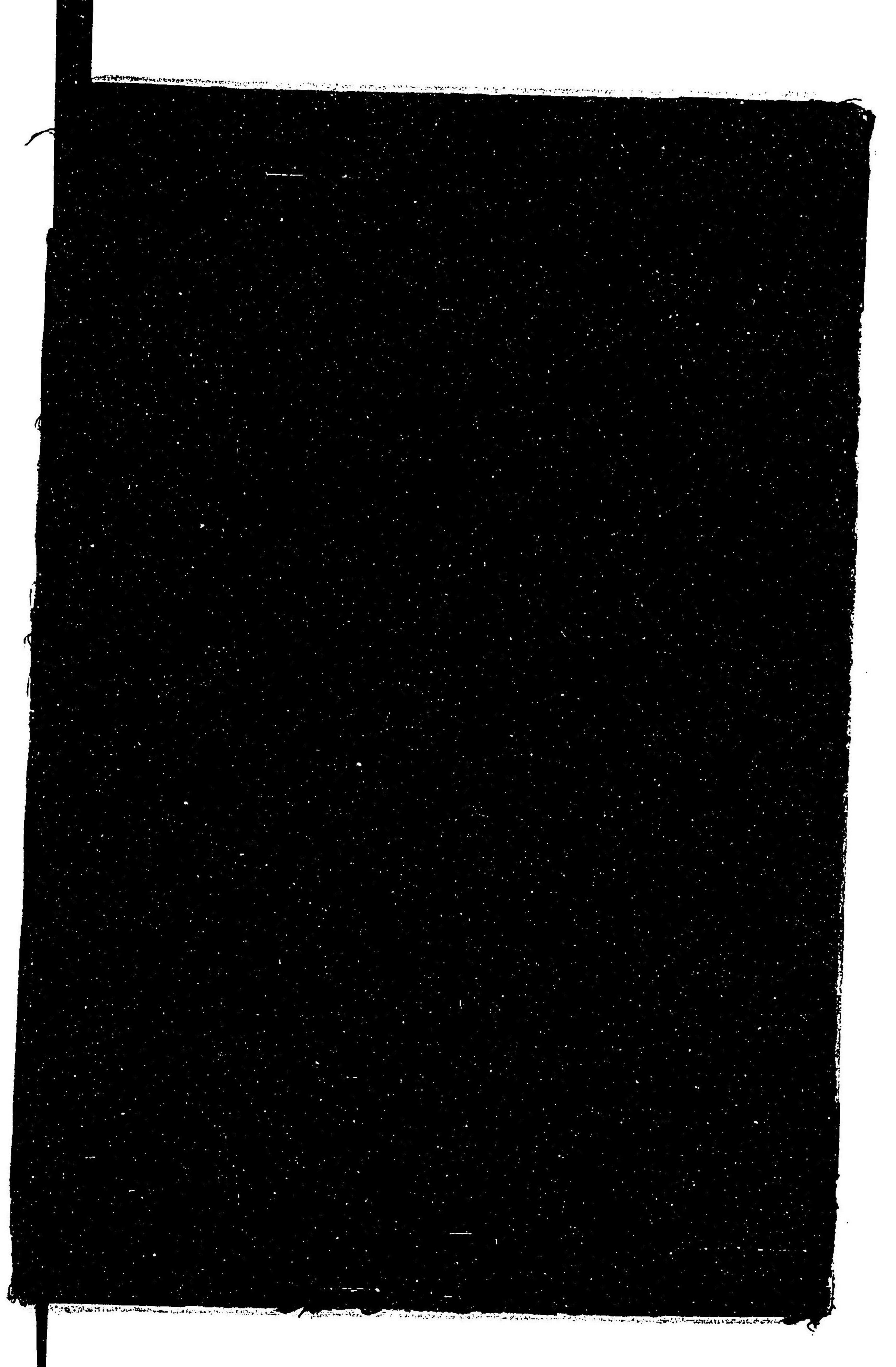
東京市京橋區尾張町貳丁目拾五番地

警 文 醒 社 館





324
1667



06

(M)

020302-000-3

324-166

開教五十年記念講演集 附，祝典記録

鵜飼 猛 / 編

図版

M43

ABI-0108



